

- 問1 群馬県大泉町の公共施設の案内やウェブページでは、日本語や英語に加えてポルトガル語による表記が積極的に取り入れられています。このような取り組みが行われている背景として最も適切な理由はどれですか。（2019年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 海外のIT企業を工業団地に誘致し、最先端の技術を取り入れる環境を整えるため
 2. 町内の日本人が、多くの外国語に接することで国際的な語学力を向上させるため
 3. 町内に多く居住するブラジル人などの外国籍住民が、日常生活をより生活しやすいようにするため
 4. 海外からの観光客を積極的に誘致し、地域の観光消費額を増加させるため
- 問2 地方別の農業産出額の構成を示した統計において、野菜の占める割合が約40%と極めて高く、花きも約8%に達している一方、米の割合が10%台にとどまっている地方があります。このように、大都市という巨大な消費地に近い利点を生かし、新鮮な野菜や花などを生産して出荷する農業の形態を何といいますか。（2019年 奈良県公立入試 類似）
1. 近郊農業
 2. 適地適作
 3. 抑制栽培
 4. 促成栽培
- 問3 関東地方では、神奈川県、埼玉県、千葉県といった周辺の県から東京都心部へ移動する「通勤・通学人口」が非常に多いという特徴があります。このように、都心に勤務・通学する人々の住宅地としての役割を担っている都市や地域を指す言葉として、最も適切なものはどれですか。（2021年 香川県公立入試 類似）
1. ベッドタウン
 2. 限界集落
 3. 政令指定都市
 4. 工業地域
- 問4 東京都の人口統計において、練馬区や江戸川区、杉並区などの区に見られる人口の特色を説明したものとして正しいものはどれですか。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. 住宅地としての人気が高まって都心から多くの企業が移転してきたため、昼間人口が夜間人口を大きく上回る。
 2. 都心へ通勤・通学する人が多いため、その地域に住んでいる人の数（夜間人口）が、昼間にその地域にいる人の数（昼間人口）を上回る。
 3. 都心のオフィスビル化が進んだ影響で、昼夜を問わず人口が減少しており、夜間人口が昼間人口を下回る状態が続いている。
 4. これらの区はベッドタウンとしての機能を失い、現在は昼間人口と夜間人口の差がほとんどなくなっている。
- 問5 ある地域の常住人口（夜間人口）に対する、昼間その地域にいる人口の割合を「昼夜間人口比率」と呼びます。東京都のように、この数値が100を大きく上回る都市において、人口がこのように変化する主な理由として適切なものはどれですか。（2025年 秋田県公立入試 類似）
1. 東京都は面積が狭く、1平方キロメートルあたりの人口密度が高いため
 2. 周辺の地域から、仕事や通学のために多くの人々が移動してくるため
 3. 東京都の合計特殊出生率が周辺の県と比較して極めて高いため
 4. 観光客が夜間に宿泊施設を求めて周辺の県へ移動するため
- 問6 関東地方北部に位置する内陸県であり、広大な平野部を利用した米作りや、いちごの産出額が非常に多いことで知られる、農業が盛んな県はどこか。（2023年 山形県公立入試 類似）
1. 埼玉県
 2. 茨城県
 3. 栃木県
 4. 群馬県
- 問7 東京都には多くの企業の事業所や大学が集中しているため、周辺の各県から多くの人々が移動してきます。このような都市機能の集中が東京都の人口動態に与えている影響として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 奈良県公立入試 類似）
1. 交通網の発達により、地方都市から東京都への通学が容易になったため、東京都内にある大学の数は減少傾向にある。
 2. 企業の事業所や大学が都心に集まっているため、周辺の県から東京都へ向かう通勤・通学者が多く、昼間の人口が夜間の人口を大きく上回っている。
 3. 都心の地価が高騰した影響で、居住地が郊外へ広がり、都心部の夜間人口が周辺の県に比べて極端に多くなっている。
 4. 高度な経済機能が集中した結果、地方からの人口流入が止まり、東京都と周辺の県との間での人口移動はほとんど見られなくなっている。
- 問8 北関東工業地域が、内陸部を中心とした立地でありながら、機械工業を中心に発展を続けている背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2021年 静岡県公立入試 類似）
1. 利根川などの豊富な水資源を背景に、電力消費が激しい鉄鋼業や石油化学コンビナートが集中したため
 2. 地価が安く広大な土地が確保でき、高速道路網の整備によって自動車や部品の効率的な輸送が可能になったため
 3. 古くから続く製糸業の伝統を活かし、絹織物の技術を先端的な半導体製造へと直接応用させたため
 4. 大規模な港湾施設が整備されたことで、海外から輸入した鉄鉱石や石炭を直接工場へ運び込めるようになったため
- 問9 関東地方の工業は、かつては繊維や航空機産業が中心でしたが、現在は電気機械や輸送用機械を中心とした構造に変化しています。このような工業の発展に伴い、工場が海岸部だけでなく内陸部へと進出した要因として、最も適切な背景はどれですか。（2022年 東京都公立入試 類似）
1. 地球温暖化による海面上昇の影響を避けるため、政府がすべての工場を内陸部に移転させる政策をとったため
 2. 東名高速道路や中央自動車道などの高速道路網が整備され、製品や部品の陸上輸送が容易になったため
 3. 内陸部の方が海岸部よりも地価が高く、ブランド力の高い製品を製造するのに適していたため
 4. 海外から輸入する鉄鉱石や石油などの原材料を、内陸部にある大規模な港湾で受け入れる体制が整ったため
- 問10 尾瀬国立公園は、広大な湿原や山岳地帯を有し、日本の複数の地方にまたがって位置することで知られています。この国立公園が位置している4つの県の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2017年 神奈川県公立入試 類似）
1. 群馬県・栃木県・福島県・新潟県
 2. 群馬県・長野県・福島県・山形県
 3. 群馬県・山梨県・静岡県・長野県
 4. 栃木県・新潟県・山形県・長野県
- 問11 東京国際空港（羽田空港）から、新千歳空港や那覇空港へ向かう航空路線の旅客輸送数は、他の都市間を結ぶ路線に比べて非常に多いことが特徴です。このように、長距離区間において航空機の利用が鉄道（新幹線）に対して高い競争力を持つ主な理由として、適切な説明はどれですか。（2022年 香川県公立入試 類似）
1. 航空機は鉄道に比べて一度に運べる貨物量が多いため、旅客と同時に大量の農産物を輸送するのに適しているから。
 2. 目的地までの距離が遠くなるほど、移動にかかる所要時間の短縮効果が、鉄道に比べて航空機の方が大きくなるから。
 3. 羽田空港と新千歳・那覇を結ぶ路線は、主に海外からの観光客が国際線から乗り継ぐための専用路線として整備されているから。
 4. 北海道や沖縄県には鉄道が一切通っておらず、島国である日本において他地方と移動する手段が航空機に限られているから。
- 問12 関東地方の4都県（東京、神奈川、埼玉、千葉）の製造品出荷額について、それぞれの特徴を説明した文として正しいものはどれですか。（2018年 千葉県公立入試 類似）
1. 神奈川県は輸送用機械の割合が高く、製造品出荷額の合計は1兆円を超え、4都県の中で最大である。
 2. 埼玉県は内陸に位置するため重化学工業は発達しておらず、印刷業が最大の出荷額を占めている。
 3. 千葉県は京葉工業地域の中核であり、輸送用機械が製造品出荷額の約17.6%を占める最大の産業である。
 4. 東京都は化学工業の割合が10%を超えており、京浜工業地帯における化学製品の供給拠点となっている。